

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・相変わらずインパウンドを含め観光客の増加が続いており、人通りにはにぎわいがみられる。ただし、地元客にとっては終わりのみえない物価高に財布のひもが締まっており、前年同期と比べ、消費には慎重さがみられる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が前年比で多少伸びてきており、ようやく新型コロナウイルス感染症発生以前の水準に近づいてきている。様々なイベント等も活発に行われており客も行動的になっている。ただ企業等団体の動きが少し伸び悩んでおり難しい局面にあると考える。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症発生以前に戻り毎週末の夏のイベントが再開され、商店街や夜の繁華街にも人が多くなってきた。来客数が増えてにぎわいが元に戻った。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年同月を下回ったが、外商が好調であった。今月後半から伸びて店頭と外商を含めた売上合計は前年同月を上回った。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・コロナ禍で苦戦していた大型の総合スーパーに客が徐々に戻ってきている。
	○	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型車効果で販売が好調であった。
	○	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・大手自動車メーカーの生産台数における国内分がおおむね順調に推移しており、年末までは大きく崩れることはないと思われる。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況も大分落ち着き、天候が暖かくなったことに伴い客の出入りが多い。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が過ぎ、大分日常が戻りつつある。それに伴い複合施設に入っているレストランも売上が回復しつつある。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・現状は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類感染症に移行したので、夜の飲食などで少し客が増加している。しかしタクシー乗務員が不足していること、また個人タクシー廃業者数増加に伴い、タクシー台数も減少し、週末における客のタクシー待ち時間は1時間前後掛かっている。
	○	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・観光客が増加傾向にある。特に週末は新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつある。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・イベントや旅行者数の増加に伴い、美容室の需要も増えてきた。
	○	設計事務所（所長）	来客数の動き	・工場と生産設備に対する建設の話が何件か増加してきた。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・アフターコロナということでかなり客が戻ってきている。それに伴い観光客も戻り、にぎわいがある。しかし金の使い方、客の様子がかなりシビアになっており、なかなか消費につながっていないようにみえる。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・想定される新型コロナウイルスの第9波の感染状況がどこまで広がるか、また、日本独自の低金利がどこまで耐えられるかがポイントだが、世界で最も出遅れていた株価が30年ぶりの3万円定着から、更に史上最高値を目指す場合は、可処分所得の増加が消費経済によりやくプラスに働き始めるのではないかと考える。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・繁華街も少しずつにぎわいを取り戻しているようだが、売上は減少したままである。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数と買上点数の減少傾向には変化がみられない。	
□	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・買物はポイント強化日や特売日により集中している。また、ふだんは安い店で買い回りをしている。	
□	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数が増加している。来店客の様子も新型コロナウイルス感染症発生前に戻ったと考える。一方で、客単価は伸びていない。	

	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・5月から新型コロナウイルスの感染症法上の分類の5類移行により、人流が活発になり制限もなくなったことから来客数も前年を上回り売上も順調に前年比で増加していたが、6月に入ると同時に来客数が前年を下回っている。消費先の選択肢が増加したことが要因とも考えられる。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・輸送料、電気代の高騰で商品原料に起因する値上げが継続している。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・2～3か月は大きく変わらないが、中にはついで買いの客もあり、雨等といった多少の天候要因の影響か、やや良くなっていると考え。いよいよ来月はボーナスが出そうなので期待したい。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客の来店頻度がコロナ禍の下よりも少し減っていると考え。電気代が上がったり、雇用保険料が上がったりして、客の買い控えもある。そのため、大企業で良いところは良いが、中小企業にとっては今のままだと厳しい状況が続くと考え。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・省エネ家電への買換えを検討しているものの、まだ様子見状態にあるようで、下見は多いが購入量は思ったほど伸びていない。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援終了後、国内観光客の動きは鈍くなっている。インバウンドの本格回復まで谷間ができるとみられる。
	□	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援の終わりを受け宿泊者数の伸びが鈍化し、団体の催行回数が減少傾向にある。一方で宴会需要は新型コロナウイルス感染症発生前にほぼ戻り、問合せも増加傾向にある。婚礼については一向に改善しない。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・今年の春は、新型コロナウイルス感染症も多少収まって制限もなくなり、また四国遍路の仕事が忙しく3～6月と十分な売上となった。街のタクシーについては、四国遍路への対応や廃業によって、タクシー台数が減少する一方、需要はあるため、売上はそこそこ確保できていると考える。
	□	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・販売計画は達成見込みであるが、来客数は前年比で減少したままであり、回復の兆しがみえない。
	□	美容室（経営者）	単価の動き	・料金を気にする客が増えた。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・電話での注文点数が減少している。また、注文内容としての数量の減少など、件数、商品の動きが鈍い。
	▲	スーパー（統括担当）	競争相手の様子	・新聞折込チラシの投入量が、全体として増加している。売上が前年を割っているスーパーが増加しているのではないかと考える。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・商品購入はやや減少しており、購買力に弱さがある。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・3～5月は前年比10%以上で推移していたが、今月は強い雨の影響から前年並みに推移し、息切れしているのではないかと考える。
	▲	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・前年度と比べ特にエアコンの販売台数が伸びておらず、前年を下回っている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の新車受注は前年比7割程度の推移である。また、登録台数では前年を上回るものの、前年は半導体不足や新型コロナウイルス感染症等の影響で悪すぎたせいでもある。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・物価上昇の影響が続いており、前年同月比で売上が減少し続けている。
	×	—	—	—
企業 動向 関連  (四国)	◎	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月も店頭での販売が好調である。特に都市部、観光地の小売店からの受注が旺盛であり、繊維雑貨品に関してはある程度、消費者が価格上昇を受け入れている。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が回復している。今後も回復傾向が続くと考え。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・足元受注残もあり、生産・販売量もそこそ良い。

	○	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ロシア・ウクライナ問題の長期化やインフレ・円安進行などにより、原材料・エネルギー価格は高止まりし、調達・物流環境は厳しい状況が続いている。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人流がかなり増えている。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・社外とのイベントやボランティア活動について、参加者数が増加傾向にあるとともに、マスクの着用者も若干減少している印象があり、新型コロナウイルスの感染対策が必要でなくなったわけではないが、従来の生活様式に近づいている。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響もなくなり、原材料価格の値上がり分も価格転嫁できている。
	○	税理士事務所	取引先の様子	・企業の売上が増加している。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・食料品の値上げが続いているが、生産費・原材料費の値上げが転嫁できる品目とできない品目がある。青果物については転嫁できない品目であり、天候要因等により出荷量が減らない限り卸売価格が上がる状況にない。量販店は青果物を利益商材として捉えており安売りもしない。消費者は財布のひもが固い。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が定かではなく、大きな案件がなかなか決まらないというのが現状であり、すぐには景気が回復してこないと考える。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・変わらず公共事業が出ていない。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取扱物量からみる限り、発送到着物量共に前年を下回る状況が続いており、一般消費財を中心とした個人消費の停滞を強く感じる。7月以降は電気料金値上げ分の転嫁による一般消費財の値上げが予定されているが、駆け込み需要による取扱物量の増加はほとんど見受けられず、消費者の節約志向の強さの表れがみて取れる。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類感染症に移行した影響で、制限のないなか、県外旅行者が増加傾向にある。公共施設の利用者も新型コロナウイルス感染症発生前と同等の数値に戻りつつある。ただ電気代の高騰は前年比120%を超えるほどとなり、サービス提供の質を維持する努力が大きな課題となる。
	○	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・飲食・サービス業界で客足が戻りつつあり、景気は少し良くなっている。コロナ禍で減らしたスタッフの再確保や増員に伴う苦戦と賃金アップに伴う人件費増が課題として残っているものの、売上自体は回復基調のため、景気は良くなっていると判断する。
	○	職業安定所（求人開発）	それ以外	・就職率や充足率が上昇してきた。
	○	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・前年度まで採用が非常に少なかったプライダル系、事務関係の職種についても求人が復活しており、ほぼ全ての職種で採用活動が活発になっている。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・インバウンド需要もあって人手不足感が非常に高まっている。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・企業からの依頼は一定数あり就労につながっているが、仕事の内容でミスマッチも多く発生していることが影響し、退職者数も一定数ある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・中小企業が大半である田舎の県では、所得への反映が難しいことから個人消費の伸びる要素がない。
	×	—	—	—